

～ ごあいさつ ～



センター長 木村 浩二

日頃より、ご利用者ご家族をはじめ、関係者の皆様、地域の皆様には、友愛デイサービスセンターの事業運営に温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、当センターは、敷地内の別棟に事業スペースを移転し、従来とは打って変わり広々とした環境の中で、利用者の皆様には一層快適にお過ごしいただけるようになりました。今後は、医療的ケアを必要とされる方も含め、皆様のご利用希望にできる限りお応えしてまいりますので、是非とも新しく生まれ変わった当センターをご見学いただければと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

私たちは、法人の掲げる「共に生きる/感じる・創る・つながる」の理念に基づき、相手の立場に立ってその思いに共感する感性を第一義にするとともに、職員一人ひとりが洞察力、想像力、実行力を駆使して、ご利用者の自己実現や質の高いサービスの提供に努めております。ご利用者を主体とする丁寧な接遇マナーはその一環であり、「言葉遣いは心の鏡、接遇は組織の鏡」と言われるように、日常の何気ない会話においても、ご利用者の尊厳に配慮することを大切にしております。

これからも多くの方々に支えられていることを忘れずに、利用してよかったとだけいただける施設、社会の信頼を得て社会の期待に応える施設を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本誌発行にあたり世田谷区障害福祉部障害者地域生活課長須田様には、お忙しいところご寄稿いただき、厚くお礼申し上げます。

目 次

ごあいさつ	
友愛デイサービスセンターの概要	
新規ご利用者紹介	
世田谷区の障害福祉施策の動向 並びに	
友愛デイサービスセンターに求める役割と期待	
嘱託医紹介	
友愛デイサービスセンターはこれからますます頑張ります	
友愛デイサービスセンターが生まれ変わりました	
笑顔があふれるフォトギャラリー	
ご家族コラム	
高齢者福祉との違いを感じながら	
ある事件に思う	
職員紹介	
短期入所事業の現状について	

友愛デイサービスセンターの概要

1 指定生活介護事業(通所)

定 員 20 名

対 象 主に身体障害者(18 歳以上)

重症心身障害者・要医療的ケア者受入施設

2 指定短期入所事業(宿泊)

定 員 3 名

対 象 主に身体障害児/者

重症心身障害児者受入施設

地域生活支援拠点等事業登録施設



新規ご利用者紹介

○木村 素子(きむら もとこ)様



お母様より

4月1日から友愛デイサービスセンターに通所している木村素子です。昭和48年11月28日生まれの50歳です。千歳台福祉園に18年間通所し、その後は東京リハビリテーション世田谷に約3年間入所していました。現在は、グループホームめぐりに住んでいます。友愛デイサービスセンターは、明るく楽しい雰囲気なので嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

職員より

お話し・音楽・電車などが大好きな木村様。来所されると、毎日元気な声で「こんにちは」「元気？」と、ご利用者や職員に話しかけて下さっています。

友愛デイサービスセンターで提供している日中活動にも、積極的に参加されています。特に音楽活動ではとびきりの笑顔で歌を歌われ、鈴などの楽器も楽しく演奏されています。また、ご利用者の誕生日会では、率先して「おめでとう」とお祝いの言葉をかけられるなど、優しいお人柄がとても魅力的です。

これからも、元気に楽しく過ごしましょう！

○本村 英一郎(もとむら えいいちろう)様



奥様より

4月1日から友愛デイサービスセンターに通所している本村英一郎です。昭和55年生まれの44歳です。沖縄生まれ、福岡育ち。京都の大学を出て、東京ではITコンサルタントの仕事をしていました。志半ば、40歳での脳卒中・てんかん重責発作を経て、今のライフスタイルにバージョンアップしました。たくさんのリハビリや数々の不安、何度かの命の危機を妻と共に乗り越えて、流れ流れて友

愛さんにやってきました。僕も妻もがんばって生きていて偉いです。これからもよろしくお願いします。

職員より

身体を動かすことが好きな本村様は、日々、歩行訓練をはじめとする訓練活動に汗を流されています。訓練中はとても充実した表情で真剣に取り組まれる一方、職員の冗談に声を出して笑われ、楽器の演奏や歌を聴かれて涙されるなど、感受性も大変豊かでいらっしゃいます。また、奥様が来所された際には、目を輝かせて笑顔になるなど愛妻家でもあり、奥様との仲睦まじいやり取りには、思わず周囲の笑みもこぼれます。これからも、友愛デイサービスセンターに新しい風を吹き込んで下さい。

世田谷区の障害福祉施策の動向 並びに 友愛デイサービスセンターに求める役割と期待

世田谷区障害福祉部
障害者地域生活課長 須田 健志

友愛十字会の皆さまには、日頃から世田谷区の障害福祉施策にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

また、友愛デイサービスセンターにおかれましては、医療的ケア者も含む重度障害者の支援にご尽力いただき深く感謝申し上げます。

区では、本年3月に「せたがやインクルージョンプランー世田谷区障害施策推進計画ー」を策定し、その基本理念として「障害のある人もない人も お互いの人格や個性を尊重して 住み慣れた地域で支えあい 選択した自分らしい生活を 安心して継続できる社会の実現」を掲げ、令和6年度から8年度までの計画期間における支援者の行動の基本的な考え方を明らかにしております。

障害者施設についても、令和2年9月に策定しました「障害者施設整備等に係る基本方針」を、この計画の策定に合わせて改定し、今後の区の障害者施設の整備方針を明らかにしております。具体的には、障害者の地域生活を支援するため、これまで施設入所していた重度の障害がある方も入居できるグループホームや日中活動の場である生活介護の施設を公有地等を活用して整備することとしております。特別支援学校を卒業する重度障害者の数の増加や障害者の高齢化による重度化など様々な要因があり、より一層の確保が課題となっています。

このたび、友愛デイサービスセンターを敷地内で移転したと聞いておりますが、より多くの利用者の皆さまが快適に過ごせる施設なることを、区としても期待しているところでございます。先日、移転先を視察させていただきましたが、広々としたスペースがあり、利用者の皆さまもとてもうれしく感じられ、活き活きと過ごされているのではないのでしょうか。

国からは、これまで施設入所していた障害者の方々の地域移行をこれまで以上に推進する動きもあり、地域における重度障害者の日中活動の場はますます必要となってきます。そういった意味では、友愛デイサービスセンターに期待するところは、これまで以上に大きくなっていくと思います。特に医療的ケア者を受け入れる施設は区内では限られており、区としても整備に取り組みますが、より一層のご協力をお願いしたいところでございます。

障害福祉については取り組む課題が山積しておりますが、区としましても障害者が地域で安心して自分らしい生活が継続できるよう取り組んでまいりますので、区と一緒に頑張っていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

嘱託医紹介



国立成育医療研究センター
総合診療部
中尾 寛(ひろ)先生

をキャンプに連れていく活動をしていたこともあり、自然に小児科医になったのかもしれません。ついでに思い起こせば、大学生の時には、知り合いのついで、精神・知的障害のある方々の地域グループホームに1～2か月ほど同居して、一緒に共同作業所に通う生活をしたことがあります。病院でも、いわゆるキャリアオーバーで成人になった患者さんたちを診せてもらうこともあります。友愛デイサービスセンターでも、様々な先天的・後天的な疾患のある方々の、成人になって生活される姿を診させて頂くことは、病院とは違う勉強をする気持ちになります。



病院で上記のほか、予後の限られたお子さんたちの緩和ケアに関わることや、育児の困難さを抱えるご家庭の支援、あるいは子ども虐待の対応などを多く経験し、ケアについて考え、学び考えるところが日々あります。

東大を退官された上野千鶴子さんは、講演の中で、自身が親御さんを介護された経験も踏まえて、「ケア＝非暴力を学ぶ実践」と仰っていました。裏返せば、ケアは暴力・支配への誘惑に満ちているということでしょう。自分たちの見聞きする実際からも頷けます。

子ども虐待を例にとると、家庭の孤立が大きなリスク因子の一つであることはよく言われます。ケアをする人自身が孤立させられてしまうと、暴力への誘惑に駆られやすくなるということでしょうが、これも実感からよく理解できます。

ケアするひとの孤立について、“ケアの倫理”の文脈では、「他者のケアを必要とするひとに対するケアを担う者へのケア提供者」(岩波新書『ケアの倫理』)の役割が提案され、「他者からケアされることが必須のひとを中心に、そのひとをケアするひと、ケアするひとをさらにケアするひとや諸制度」といった「無限の連鎖」「入れ子状の依存関係」(同)の原理を提示しています。これは「自立した存在こそが社会人である」という従来の人文社会学の想定に対して、「社会的に周辺化されがち」な「依存状態にある」「無力な状態」を中心におく原理の転換であり、ケアがなければ「世界を維持し、継続させ、そして修復する」(同)ことができない、と主張する倫理です。これからもケアの現場に関わり続け、考え続けたいと思っています。

友愛デイサービスセンターは これからますます頑張ります



部長 陸田 光昭

私は1年半前まで、港区にある生活介護事業所と短期入所事業所に所属していました。当該事業所には広々とした訓練室や体育館、プールなど、とても充実した設備がありました。友愛デイサービスセンターの第一印象は「すごく狭くて圧迫感を感じる」でした。これまで恵まれた環境の中で支援していただけに、余計にそう感じたのかもしれませんが。

また、設備の違いだけでなく、日々の過ごし方も大きく異なっています。以前は、主たる対象者が知的障害者だったこともあり、日中活動として、たくさん運動した記憶があります。ところが、友愛デイサービスセンターは、ご利用者の生活動作に介助が必要な場面が多く、食事や水分をしっかり取ることや身体の保清を保つなど、基本的な生活が健やかに過ごせるような支援に力を入れています。日中活動は、個別に訓練したり、アロマでリラックスしながら安静にしたり、ご本人のペースを大切にしながら毎日活動しています。

支援にあたっては、ご本人の意思表示やサインを汲み取るためのアンテナを、日頃から張り巡らせることが重要だと私は感じています。仮に言葉でのやり取りが円滑にできなかったとしても、どのようなことを考え感じているのかを想像しながら、支援にあたっています。些細な状況変化を察知して、自分の見立てがおそらく正しいと思えた時は、心が通じ合えたような気がして、とても嬉しくなります。

職場の雰囲気も、それぞれの事業所特有のものがあって、それが利用者サービスや職員の働き易さに大きく影響します。友愛デイサービスセンターは、「規律性」「責任性」「積極性」「協調性」をととても大事にしています。

福祉人としてだけでなく、職業人として、また組織の一員としても遵守すべき普遍的なパラダイムが、事業所にしっかりと定着しています。



これは、センター長と主任サービス管理責任者が、数年に亘って意識改革や組織作りを行ってきた結果であろうと考えています。しかしながら、ハード面ではやはり苦労が絶えず、昔から手狭なスペースで試行錯誤しながら支援を行ってきたようです。第一印象で感じたとおり、この狭隘さが事業所最大の弱点として立ちはだかる、まさに大きな壁(サービスの質の限界点と物質的な境界を掛けているつもりですが...)としてありました。

高齢者通所介護事業所の砧デイサービスセンターと事業スペースを相互に入れ替える計画が、1年ほど前から現実性を帯び、今年 9 月に実施することが決定しました。ようやく広々とした訓練室がある場所への移転が叶い、晴れて事業所の弱点を払拭することができます。

この新天地で、より一層皆様の期待に応えられるよう職員一同頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

友愛デイサービスセンターが生まれ変わりました

当センターは敷地内の別棟に移転しました。従来に比べて一段と広くなったスペースで、ご利用者も一層快適に過ごすことができるようになりました。設備の一部をご紹介します。

入口



扉は両開きで開口も広く、車いすのご利用者でもスムーズに出入りができます。

洗面台



明るく使いやすくなりました。大きな鏡により、ご利用者の口腔ケアの状況もしっかり確認できます。水栓は空気を含んだ優しい出水により、水撥ねも少なく快適にご利用いただけます。

訓練室



ご利用者が通所中の大半を過ごす訓練室は、従来の2倍以上の広さとなり、車いすのご利用者も職員もスムーズに移動できるようになりました。

高床も拡張し、ゆったりと静養いただけます。南側は全面サッシのため日当たりも良好で、明るく開放感あふれるスペースとなっています。

高床



浴室



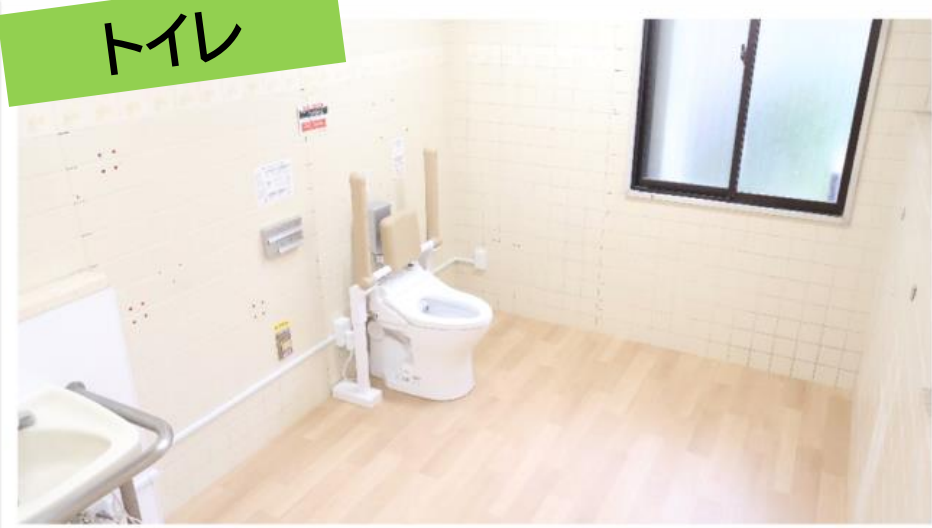
広く開放的な浴室に機械浴槽を配置し、安心・安全に入浴ができるようになりました。

多目的室



音楽活動やスヌーズレン、創作活動などの各種活動室としても、また、食堂や会議室としても使用できる十分な広さを確保しております。

トイレ



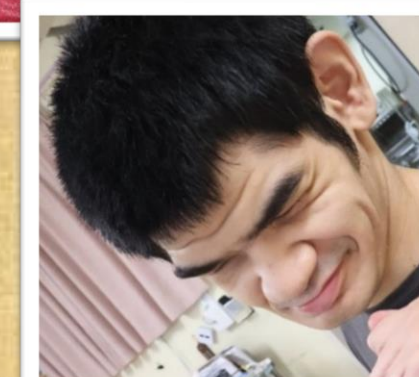
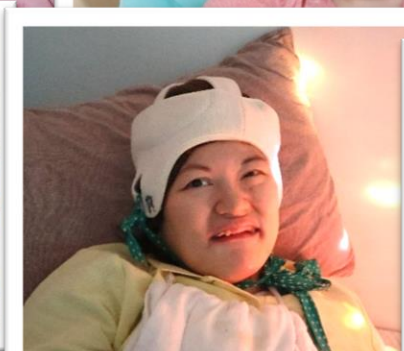
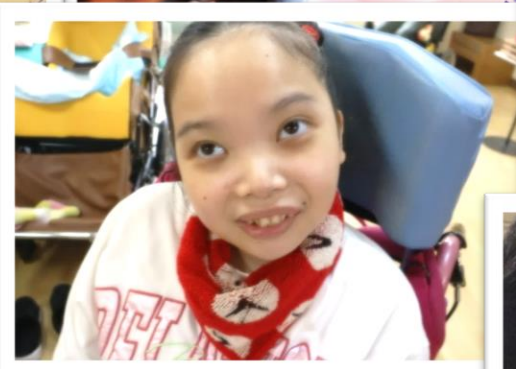
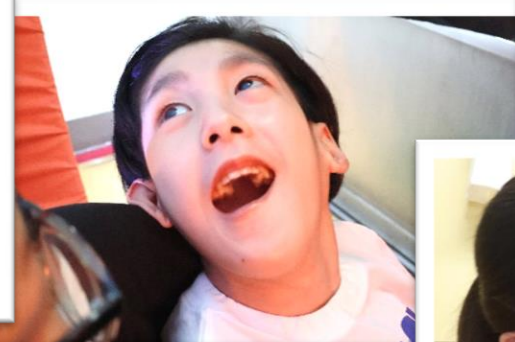
車いすご利用者用のトイレを増設し、2つのトイレが使用できるようになりました。どちらも広く、安心・安全にご利用いただけます。

中廊下



車いすご利用者同士がすれ違っても余裕のある中廊下は、歩行訓練にも最適です。

♪笑顔があふれる♪ フォトギャラリー



ご家族コラム



主任サービス管理責任者
荒井 広祐

友愛デイサービスセンターの生活介護事業では、様々な障害をお持ちのご利用者を支援しています。そして、そのご利用者の生活や当センターの事業運営は、ご家族の暖かいご協力によって支えられています。

本コラムでは、当センターのご利用者のお一人、簗浦 祥弥子(みのうら さやこ)さんのお母様でいらっしゃる簗浦 敬子(みのうら けいこ)さんに、お話を伺いました。

祥弥子さんとお母様のこれまでを教えてください。

まず、私が祥弥子の障害(レット症候群)を受け入れられなかったことが、全ての始まりでした。



敬子さんと祥弥子さん

他のご家族はもっと早く受け入れられるのかもしれませんが、本当に情けないことに、私はどうしても「障害を持つ子どもの母になる」という覚悟ができませんでした。

祥弥子は受障してすぐにはレット症候群の診断をされなかったので、4歳になる頃までは、整体や東洋医学を頼ってきました。

でも、以前はできていたことが徐々にできなくなるのが、レット症候群の特徴です。当時の私は、祥弥子の身体機能が日に日に落ちていく理由も分からず、「話すのも歩くのも、またできるようになるんじゃないか」と信じていました。祥弥子は双子の姉よりも言葉



産まれた頃の祥弥子さんとお姉妹

ていた頃は部屋中を自由に動き回っていたし、ごはんの時間には、必ず祥弥子が一番に来てくれていました。義理の母がキッチンでコロッケを作っていると、隣から一生懸命覗き込んでいた祥弥子の姿を、今でも思い出します。

祥弥子の4歳の誕生日までは、自分の気持ちをごまかしながら、周りにも嘘をつきながら生きていました。そして、祥弥子が4歳の誕生日の時、義理の母が「敬子ちゃん、さや(祥弥子)は無理かもね」と、一緒に泣いてくれたんです。この時にようやく、自分の中で「これ以上は、どうやっても無理なんだ。立つとか話すとか、諦めなきゃいけないんだ」と思うことができました。そして、それ

までの私は、祥弥子のことではなく自分のことしか考えていなかったことに気づき、心から祥弥子の全てを受け入れようと思いました。私自身の未熟さ故の4年間だったと思っています。

その後、意を決してこども病院(小児専門病院)を受診したところ、祥弥子はレット症候群ではなく、脳性麻痺の診断を受けました。「脳性麻痺なら生後間もなく判明するのでは」と思いながらも、後日に夫が再受診したところ、医師から「何でまた来たんですか？脳性麻痺と診断したのだから、もうやることはないです」と突き放されてしまいました。

そのこども病院が凄く大きな病院だったこともあり、私の中で不信感が強まり、しばらくの間は病院自体に行けなくなってしまいました。また、当時は夫も仕事の都合で県外に住んでおり、ほぼ母子家庭のような状態でした。私は小さい子を3人抱えながら常に孤独を感じ、心も疲れきって、絶望しかなかったことを覚えています。

そして祥弥子が4年生くらいの時、家族みんなで世田谷区に引っ越して来ました。引っ越してしばらく経ったある日、テレビでレット症候群が取り上げられていました。それを観た私と義母が「この症状は祥弥子と一緒にだ」と思い、すぐに

祥弥子連れて国立成育医療研究センターに通院したところ、ようやくレット症候群と診断してもらえました。その後、東京都立光明学園に通い、卒業後には晴れて友愛デイサービスセンターに通所することができました。改めて振り返ると、よく4年間も飽きずに悩み続けたと思います。結局は自分との闘いなんです。もっと大変なご家庭やお子さんもいらっしゃるだろうに、結局は自分のことしか考えていなかったと思います。

ご本人の有り様を憂うからこそ、4年間もの間、悩まれていたのではないのでしょうか。

私は知識もないし、祥弥子の障害は進行するばかりだし、本当に無力でした。どんなに「祥弥子と変わってあげたい」と願っても、変わらない。

当時はよく、祥弥子の障害が夢だったと思うあまり、「祥弥子と手を繋いで眠って目覚めたら、自分と魂が入れ替わらないかな」と妄想していました。私のような年老いた身体でも、祥弥子に歩くことや話すことの喜びを感じさせてあげたいと。

世の中には我が子を育てられなくて、死なせてしまったりする親御さん達がいると思いますが、その気持ちを少しは分かるかな。親が一瞬に思い詰めてしまうことはあると思います。少なくとも、「何でそんなことをするんだろう」とは思いません。私も、それだけの気持ちになることはあったから。

それでも、私が祥弥子を「かわいい」と思う気持ちを持ち続けられたのは、私が祥弥子と一緒に階段から落ちてしまった時に、本能的にこの子を庇って骨折したんです。その時に、私は自分よりも祥弥子を大切に思っているんだと、自覚できたことが大きいと思っています。



祥弥子さんとお姉妹

以前から様々なエピソードをお伺いしていましたが、その根底には、ご本人への深い愛情、希望、申し訳なさを感じていました。ご本人への想いの大きさに、至らないご自身を重ね、力が及ばないと痛感し続けることはとても辛いことだと思います。

そうですね。でも今思えば、それも私の未熟さだと思っています。祥弥子が双子で産まれてくると分かってから、「子育ても得意じゃないのに、大丈夫かな」という不安があって、そういうマイナスな想いがお腹にいる時から伝わったから、障害を負ってしまったのかと思ったこともあります。

(祥弥子さんを見ながら)嫌なお母さんだよね。きっと祥弥子が、一番私の嫌なところを知っています。

きっと祥弥子さんは、お母様の良い所も嫌な所もたくさん知っていて、だから、今の祥弥子さんがいるのだと思います。

そう言っただけだと嬉しいです。それに、私も4年間の色々な反省も経て、この子がいるからこそその楽しさや喜びに気づくことがあります。この子がいなければ絶対に会えなかった人との出会いがありますし、私が知らなかった色々な世界があることに、いつも驚かされます。

友愛デイサービスセンターと出会ったことも含めて、全てこの子が引き合わせてくれたんだと思っています。まさに一期一会で、私の人生の中で一番の財産だと思っています。そして、これまで紆余曲折はあったけれど、家族は常に私のペースを大事にしてくれました。世田谷に来てからは夫も家で仕事してくれるし、引っ越す前と生活は全く違います。お姉ちゃん達も祥弥子の面倒を凄くよく見てくれて、いつも助かっています。義理の母も祥弥子に優しくしたし、いつも可愛がってくれていました。家族には、いつも心から感謝しています。



愛犬と戯れる祥弥子さん



祥弥子さんとご姉妹

祥弥子は今でも食べることが好きで、私が台所に立っているとじーっと見ています。クッションや身体で料理を隠そうとしても、匂いで気づくんです。特にポテトチップスとみかんとカレーは大好きで、自分の口に入らないと怒るくらい。声を出してうるさいこともあるけれど、それでも祥弥子が笑ってくれると嬉しい。あと少し恥ずかしいですが、今でも祥弥子とは時々くっついて寝ています。祥弥子は嫌がっているかもしれないけど、手を繋いだり、顔を寄せあったり。祥弥子といると、不思議と安心して寝られるんです。

祥弥子さんへのメッセージや、今後への想いを教えてください。

(祥弥子さんへ)世の中は諸行無常。周りの人も環境も変わるから、その中でも「仕方ない」と思ってやっていかなきゃだめだよ。そう思えば、何でも乗り越えられるから。

親である私は、祥弥子を見送らなきゃいけないと思っています。でも本当は、祥弥子と一緒にのお棺に入りたいかな。

私が先に死んでも、たぶん祥弥子には分からないだろうし、気づいたとしても「いないなー」くらいだろうと思います。でも死後の世界で、祥弥子が「全部、実はこういうことだったんだよ」と言ってくれそうな気がしています。祥弥子は、私を探しに来てくれるかな。

祥弥子も寿命が尽きれば自然と死んでいくだろうけど、痛いことや辛いことは少しでも短ければよいと思っていますし、少しでも祥弥子が「楽しい！」「嬉しい！」「と思える時間が長い方がよいと思っています。祥弥子が笑ってくれると、周りは幸せな気持ちになります。私も、祥弥子が笑っていてくれると、幸せです。

最後に、祥弥子さんやお母様にとって、友愛デイサービスセンターはどんな所ですか？

大げさでなく、友愛デイサービスセンターはこの世の楽園だと思っていますし、私の自慢です。友達や家族にも自慢していますし、本当にここに辿り着けて良かった。時代が時代なら、祥弥子のような子は放っておかれてしまうのかもしれないけれど、行く場所があるなんて、こんなに良いことはない。

友愛デイサービスセンターはいつも期待する以上のことをやって下さいますし、祥弥子をととても大切にしてくれる場所。私も友愛デイサービスセンターに長く関わりたいと思うし、祥弥子もいつもニコニコして帰ってくるので、絶対に「友愛デイサービスセンターに来たい・友愛デイサービスセンターに長くいたい」と思っているはずです。

今後も親子共々、末永くよろしくお願いします！



祥弥子さんとご家族に、沢山の幸せが訪れますように...

高齢者福祉との違いを感じながら



生活支援員 宮川 実香

友愛デイサービスセンターに入職し、今年の10月で1年と1か月になります。入職前、私は長く高齢者福祉の仕事に携わってきました。前職では施設経営などの間接業務が多かったことから、「もっとご利用者と触れ合う仕事がしたい」と思い、転職を考えました。

そんな時、知人から「友愛デイサービスセンターはよいところよ。一度行ってみたら。」と声をかけられました。

私自身、これまで障害者福祉分野に携わった経験はありませんでしたが、木村センター長の案内で友愛デイサービスセンターの訓練室を見学させていただいたところ、そこには様々な光景が広がっていました。

元気な声であいさつを下さるご利用者。

歩行訓練を頑張っているご利用者。

大きな声で笑っているご利用者。

腹臥位療法に取り組むご利用者。

そして、ご利用者に笑顔で元気に関わる職員の皆さん。



事業所全体が、とても明るいと感じました。また、私が離れて久しい、人とのふれあいやあたたかさを感じました。その時に、今まで経験がない障害者福祉に対する不安よりも、「私も友愛デイサービスセンターに関わりたい」と思う気持ちが大きくなり、入職を希望しました。とは言え、実際に勤務してからは高齢者福祉との違いを感じ、戸惑うことが多くありました。

中でも大きな違いの一つは、ご利用者の様態です。高齢者と障害者では心身の状況が全く異なりますので、排泄・食事・入浴などの介護、機能訓練・各種療法などの活動、

健康・安全を守るためのポイントなども変わってきます。

そのため、これまで私が高齢者福祉で培ってきた経験とは異なる視点で、ご利用者の微細な変化を捉える観察眼や、他職種との密な連携が必要であると感じました。

しかし、高齢者福祉も障害者福祉でも共通していることは、ご利用者と関係性を作っていくことの大切さです。全ての支援は、ご利用者に私という人間を知ってもらい、覚えてもらい、そして受け入れてもらうことから始まります。よりよい支援を提供するために、これからもご利用者とたくさんの関わりを積み重ね続けたいと考えています。

また、現在友愛デイサービスセンターで提供しているスヌーズレン活動では、ご利用者が普段とは異なる表情や反応を見せて下さり、よりよい支援に活かせる新たな発見や気づきが多いと感じています。ご利用者にとってさらに有意義な活動となるよう、提供方法を模索していきます。

私自身、まだまだ学ぶべきことや悩むことも多くありますが、これからも他職員と協力しながら、ご利用者が「楽しい！」と感じていただける時間を紡いでいきます。



スヌーズレンを楽しむご利用者

ある事件に思う



センター長 木村 浩二

皆様には、日頃より友愛デイサービスセンターの事業運営にご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、当センターは敷地内の別棟に事業スペースを移転いたしました。移転する前、当センターを見学された方が受ける第一印象は、「狭い」の一言に尽きるであろうことは容易に想像がつきます。私たち職員でさえそう思うのですから当然です。中には、その印象を率直に発言される方もおり、そのたびに「施設は狭いが支援は一流を目指しています」と設備の狭さよりもサービスの質の高さをアピールしてきました。これは決して慢心ではありません。車いすに乗ったご利用者の移動さえもままならない手狭な空間でも、職員全員が安全に配慮し、質の高いサービスの提供を目指して日々奮闘していたことは紛れもない事実であり、ある時見学されている方に何気なく発した「施設は狭いが支援は一流」が、それ以降の言説となりました。重度の身体障害を持ったご利用者や医療的ケアを必要とするご利用者を支援する私たちにとって、広い事業スペースは全職員の願いでしたが、その願いが叶いうれしい限りです。利用者の皆様が通所中の大半を過ごす訓練室は、従来の2倍以上の広さとなり、医療的ケアも含めたご利用者支援が効率性を確保しながら一層安全に提供できるようになりました。今後は「施設も広いが支援も一流」を当センターの強みとしてアピールしたいと思います。もちろん、このアピールが虚言とならないよう職員一丸となって邁進してまいりますので、引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年7月、九十九里の美しい海岸が広がる千葉県長生村で、重い知的障害のある44歳の男性が、将来を悲観した77歳の父親に絞殺されるという痛ましい事件がありました。父親は警察の調べに対し「施設への入所を断られ、妻と2人で面倒を見るしかないと思っていた。毎日のように寝ずに面倒をみていた。近隣に迷惑をかけないよう安心して暮らせる場所を探していた。」と供述しています。恐らく殺害された男性は、衝動性が強く、大声を出したり騒いだりしてしまい、以前住んでいたところでも、近所から再三のクレームを受けていたのかもしれません。なかなか理解を得られない社会とのいびつな関係による生きづらさから抜け出すためか、一家は住みなれた地を離れ、千葉県ののどかな海沿いの町へ引っ越してきたばかりでした。供述から見て取れるこの一家の苛烈な生活を思うと、両親の苦悩はいかほどであったか察するに余りあります。わが子を手にかけるほど追い詰められていた両親だけでなく殺害された男性をも救う手立てはなかったのでしょうか。

過酷とも言える毎日に疲れ、障害のあるわが子を殺害した高齢の父親と殺害されたわが子である男性それぞれの立場に立った時、殺害された男性への哀惜の念とともに、犯行に及んだ父親の悲壮な心情に、惻隠の情を覚えずにはいられません。障害を持つわが子と苛烈な生活を送りながら、差別や偏見など社会の圧力にも耐え忍んできた父親を、世間の多くも慮るのではないのでしょうか。

親が障害を持った子を殺害したり道連れに心中する悲劇は数多く起こっています。その時々で巻き起こる子育てに絶望的になった親への憐憫や寛大な処置を求める減刑嘆願運動など、加害者である親に同情が集まる社会の潮流に、ある障害者の当事者団体が真っ向から異を唱えたことを思い出します。「障害児だから殺されてもよいのか。障害児に生きる権利はないのか。殺された障害児への同情はないのか。健常者の差別意識やこうした価値観こそが問題の根底にあり、とにかく加害者の親を有罪にすることが障害者福祉の出発点になる。罪は罪として裁くべきだ」と訴えたのです。親に殺害されるかもしれない当事者であるからこそその舌鋒鋭い指摘であり、その主張はとても平明です。今回の事件で殺害された男性も自分の思うように生きられず辛かったはずですし、そもそもこの男性が殺害されてよいはずがな

く、この男性への共感も決して欠かしてはならないことを強く感じます。

日本国憲法は、第11条で人が人らしく生きる権利である基本的人権の普遍性・不可侵性・固有性の3つの観念を定めており、特に固有性については、人種・性別・身分などによって差別されることなく、人間であるというだけで、当然認められるべき権利として保障しています。さらに、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利いわゆる生存権は、第25条によって全ての国民に保障されていると同時に、これを保障するのは国の責務であると明記されています。全ての国民は基本的人権が保障され生存権を有しており、もちろんその権利は殺害された男性にも殺害した父親にもあったのです。それらの権利が脅かされ様々な困難に陥った人たちを救うために、福祉政策などの社会保障制度が整備され、生活の安心が支えられてきました。高齢の父親がわが子を手にかけてしまったきっかけの一つは、重度の知的障害のあるわが子を受け入れてくれる施設が見つからなかったことにあります。父親は、毎日寝ずに面倒をみていたと供述しているように、極限まで親としての責任を果たした結果、悲劇が起きました。障害によって生み出される障壁は社会の責任であり、それを解消するのは社会の責務であるという社会モデルが浸透し、親や家族が解決すべきとする家族規範や自己責任論的な考えが改まらない限り、親や家族は責任の重圧に押しつぶされて、今回のような悲劇が続いてしまうのではないのでしょうか。

厚生労働省は5月、自宅などで過ごす知的障害者の数が、令和4年12月現在で114万人に達したとの推計結果を公表しました。そのうちの6割以上が親と同居しているとか。同居している親の高齢化が進み、障害者が地域で安心して暮らせる環境をいかに整備するかが課題であると言われて久しいですが、福祉サービスの充実や、「親な亡き後」問題の解決は本当に急務だと思います。しかしながら、その実グループホームを開設しようとしても近隣住民の反対に遭い、断念せざるを得ないケースが目立っています。平成28年に施行された障害者差別解消法には、偏見や差別意識によって障害者関連施設が造れない恐れがないよう国や自治体が施設を認可する際、周辺住民の同意を求めないことを徹底するとの国の付帯決議があります。この付帯決議が付されていること自体、漠然とした不安や偏見を理由に、障害者関連施設造設に反対する意見がいかに多いかを物語っています。障害者と健常者が互いの思いに耳を傾け、想像力をもって建設的対話を繰り返しながら、双方にとってより良い形を築いていくことが障害者差別解消法の目指すところです。自分と異なる立場の人を理解するのは難しいかもしれませんが、事実に基づく情報と知識を丹念に蓄積し、相手を理解するための想像力を駆使すれば、何ができるのかが見えてくると思います。

今年4月には、社会とのつながりが希薄であったり、つながり自体を持つことができない人を社会ぐるみで支援するとした「孤独・孤立対策推進法」が施行されました。悩みや不安を抱え込み、望まない孤独や孤立に陥ることは個人の問題ではなく社会全体の問題であるとして、国も支援の強化に動き出しました。社会が当事者の支援を求める声に応えて、あらゆる施策に取り組むべきであると言明したことは大きな意義があります。孤独や孤立の受け止め方は個人の考え方で異なりますが、この法律の支援対象は、社会の不合理から生じる本人が望まずして痛みを伴う孤独や孤立に悩む人たちです。自助努力ではどうすることもできず、なす術なく途方に暮れる人たちが社会的孤立に陥る前にその苦境に気づき、既存の支援につなげたり、不足している支援を創出する仕組みは欠かせません。家庭の事情は、外からはなかなか見えにくく、異変に気づき孤立化を防ぐには地域のつながりを強化し、共生を育み、分断の拡大を防ぐ必要があります。私たちは、「他人に迷惑をかけるな」と教えられ育ちますが、困ったときに助け合うことができる寛容な社会になれば、一層暮らしやすくなることは間違いありません。苦しさや辛さを抱え込まず互いに支え合い、人と人のつながりを強める社会を目指すこの法律が、生きることすら諦めてしまいそなう人々の救いの法となることを強く願っています。命より大切なものはないのですから。

職員紹介

質問項目は
こちら

- ①名前 / 職種等
- ②出身地
- ③好きな食べ物
- ④休日の過ごし方
- ⑤友愛デイの良いところ
- ⑥仕事のやりがい

①木村 浩二
センター長



- ②茨城県
- ③実家から送られてくるコシヒカリ
- ④Youtube(テレビ)で世界各地の旅行記を見る
- ⑤何事にも職員全員が戮力協心している
- ⑥ご利用者の前向きな意識の形成と支援の成果達成をご利用者と共有すること

①陸田 光昭
部長



- ②東京都
- ③焼鳥・スタミナキング祖師ヶ谷店の特上ハラミ
- ④子供(小1・年中)と出かける
- ⑤秩序が保たれている
- ⑥社会貢献

①荒井 広祐
主任
サービス管理責任者



- ②東京都
- ③寿司・焼肉・パスタ・甘い物
- ④プロ野球観戦・映画鑑賞
- ⑤素敵なご利用者のご家族に囲まれているところ
全職員がご利用者を愛しているところ
- ⑥ご利用者のご家族の笑顔
職員の成長

①斧 由紀子
副主任看護師



- ②北海道
- ③北海道産の野菜
- ④ウォーキング・散歩
- ⑤ご利用者と職員が様々なコミュニケーションを図り楽しく過ごしているところ
- ⑥ご利用者のこれまでの取り組みを知り、通所先として友愛デイを選んでくださったことを実感したとき

①秋山 久美
看護師



- ②岩手県
- ③だし巻き卵
- ④家事・たまにゴルフ
- ⑤愛があるところ
- ⑥毎日新しい気づきをさせていただけること

①菅 貴慶
生活支援員



- ②神奈川県
- ③青椒肉絲
- ④温泉巡り・キャンプ
- ⑤ご利用者から元気を頂ける
- ⑥ご利用者の笑顔

①宮川 実香
生活支援員



- ②広島県
- ③海老・カニ・貝類
- ④掃除と洗濯。たまに美術館へ
- ⑤素敵な人が集まっている
- ⑥ご利用者からたくさんの物を頂いている

①小山 佳子
生活支援員



- ②東京都
- ③サーモン・アボカド・焼とん
- ④子供と遊ぶ
- ⑤個性豊かな人が多く魅力的
- ⑥ご利用者から笑顔をもらった時

①長谷川 恵美子
生活支援員



- ②茨城県
- ③トマト味のスパゲッティ
- ④推し活
- ⑤ご利用者に積極的なところ
- ⑥ただ好きです。ただ一緒に笑顔でいたいです

①持永 修
生活支援員



- ②長崎県
- ③寿司
- ④睡眠・草野球・サッカー観戦
- ⑤ご利用者も職員も元気よく明るく楽しい日々を過ごしている
- ⑥ご利用者のご家族の笑顔が見られた時

①萬田 浩史
生活支援員



- ②東京都
- ③肉・麺類
- ④早朝に公園の池周辺を散歩・体重減量の努力
- ⑤ご利用者・職員が笑顔で過ごされているところ
- ⑥障害に負けない強い意志・努力の継続

①伊藤 順子
看護師



- ②愛知県
- ③生プルーン
- ④カフェでコーヒーを飲みながら、SNSを見る
- ⑤みんなが仲良く、意思疎通できているところ
- ⑥ご利用者の笑顔を見ること

①生富 英美
看護師



- ②埼玉県
- ③お刺身
- ④ドライブ
- ⑤みんなが優しいところ
- ⑥ご利用者の笑顔を見ること

①榎原 安子
経理



- ②鳥取県
- ③栗
- ④身体のメンテナンス
- ⑤常に楽しそうで、そのための準備を怠らない
- ⑥達成感が得られる

①山川 敏江
ボランティア



- ②新潟県
- ③果物(特にイチゴ)
- ④買い物をして料理を作ること
- ⑤職員の皆さんがご利用者に優しく対応されているところ
- ⑥ご利用者が食事を完食され、笑顔が見られた時

**職員一同
力を合わせて
頑張ります！**

短期入所事業の現状について



主任サービス管理責任者
荒井 広祐

当センターの短期入所事業では、ご利用者の豊かな地域生活の継続やご家族の介護負担の軽減などを主な目的とし、一日に最大3名のご利用者を受け入れております。

令和5年1月からは、世田谷区地域生活支援拠点等の機能を担う事業所として登録し、緊急を要するご利用者の積極的な受け入れを推進するなど、社会的責任を果たすべく尽力してまいりました。また、近日では多くの施設見学や新たな利用登録のご希望を賜り、改めて地域福祉の一端を担う社会資源としての重責と、地域の皆様からのご期待を強く感じております。

しかしながら、全国的にも深刻化している人材不足は、当センターの事業運営にも多大な影響を及ぼしており、特に介護スタッフの新規採用は困難を極めております。

今年度より、ご利用者1名に対して介護スタッフ1名を配置するマンツーマン体制を大幅に縮小するなど、長期的な事業運営を見据えた体制整備を推進してまいりましたが、施設内外はもとより、区内において高まるご利用希望にお応えするだけの根本的な解決には至っておりません。

現在のご利用者・ご家族のご利用希望に添えない場合も多く、大変ご迷惑をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

今後も厳しい状況が続くことも予想されますが、当センターの運営母体である社会福祉法人友愛十字会の掲げる理念「共に生きる～感じる・創る・つながる～」を胸に、この世田谷の地において、ご利用者・ご家族をはじめとする地域の皆様と共に歩んでいけるよう、全力を尽くす所存です。

皆様におかれましては、引き続き変わらぬご愛顧を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。



和室タイプ



洋室タイプ



短期入所をご利用できる方

- ・世田谷区にお住まいの方
- ・医療的ケアを必要としない方
- ・65歳未満の方(介護保険の対象ではない方)

お問合せ先
Tel 03-3416-0262
E-mail yuai-short@yuai.or.jp
担当 荒井

ボランティア募集

友愛デイサービスセンターでは、ご利用者の皆さんと活動を楽しんだり、昼食のお手伝いや季節の行事に参加して下さるボランティアを募集しています。施設見学も大歓迎です。当センターで楽しい一日を過ごしてみませんか。

お気軽にお問合せ下さい。

世田谷施設へのアクセス

世田谷施設では、友愛デイサービスセンターをはじめ、世田谷更生館・友愛園・砧介護保険サービス・砧デイサービスセンター・砧ホーム・友愛ホーム・コーポ友愛の8事業所が営業しています。



- 小田急線「成城学園前」下車 → バス「渋谷駅」行 → 「成育医療研究センター」下車 → 徒歩2分
- 小田急線「祖師ヶ谷大蔵」下車 → 徒歩20分

お問合せ

〒157-8575 東京都世田谷区砧3丁目9番11号

Tel / Fax: 03-3416-0262 E-mail: yuaidei@yuai.or.jp URL: <http://www.yuai.or.jp>